

# 現代ファイナンス理論勉強会

## 3.3 一般均衡モデルとの関係

## 4 ファイナンス理論の基本定理と相対価格付け

### ■ 目的

資産の価格付け（相対価格付け）に用いる「状態価格」の存在に関する条件を示すための「ファイナンス理論の基本定理」を導出する.

#### ➤ 資産の価格付け方法

伝統的ファイナンス理論：“ポートフォリオ”を中心に展開

価格のわかる原資産で目的資産を複製するポートフォリオを考える.

現代的ファイナンス理論：“状態価格”，“確率的割引ファクター”を中心に展開

目的資産のペイオフと原資産から求めた状態価格を考える

⇒ 状態価格の存在に関する定理である「ファイナンス理論の基本定理」をまず証明する.

### 4.1 ファイナンス理論の基本定理

#### 内容の要約

- ① ファイナンス理論の基本定理の導出（Farkas の補題を使用した導出）
- ② ファイナンス理論の基本定理の別の形の導出（Stiemke の補題を使用した導出）
- ③ 双対定理によるファイナンス理論の基本定理の証明

#### ① ファイナンス理論の基本定理の導出（Farkas の補題を使用した導出）


### ■ Farkas の補題

ファイナンス理論の基本定理を証明するのに使用

#### 定理

$q \in R^K, \mu \in R^S, V$ は $S \times K$ の行列とするととき、以下のいずれか一方が必ず成り立つ

A) 方程式 $q = V'\mu$ が非負の解 $\mu \in R^S$ を持つ ※ファイナンス理論の基本定理

  $Vb \geq 0$ かつ $q'b < 0$ である $b \in R^K$ を持つ

証明の概要（図示による直感的な照明のみしか記載なし）

$V'\mu$ がペイオフ $V$ の列ベクトルの線形結合であることから、 $q$ が角錐に含まれるか否かで場合分け

含まれる場合 → A)が成り立つ

含まれない場合 → B)が成り立つ※

#### 定理（別の形）

方程式 $q = V'\mu$ が負の解 $\mu \in R^S$ を持つ必要十分条件は $Vb \geq 0$ であるすべての $b \in R^K$ に対して、 $q'b \geq 0$ である

※ 下線部 B)の否定

## ■ ファイナンス理論の基本定理

### 定理

$S$ 個の状態,  $K$ 個の資産があるとし, 資産のペイオフ  $V$  が  $S \times K$  の行列, 資産の価格  $q \in R^K$  とする. このとき,  $q$  が第 2 種無裁定条件を満たすのであれば, そのときに限り  $q = V'\mu$  を満たす非負の解  $\mu \in R^S$  が存在する.

### 証明の概要

第 2 種無裁定条件※の定義および Farkas の補題により証明可能

※第 2 種裁定条件:  $qb < 0$  かつ  $Vb \geq 0$

## ② ファイナンス理論の基本定理の別の形の導出 (Stiemke の補題を使用した導出)

### ■ Stiemke の補題

#### 定理

$T$  が  $K \times (S+1)$  の行列,  $x \in R^{S+1}$  のベクトルとすると, 以下のいずれか一方が必ず成り立つ

A)  $Tx = 0$  が  $x > 0$  の解を持つ

B)  $b'T \geq 0$  を満たす  $b \in R^K$  が存在する

↓

$T = (-q \ V'), x = (1 \ \mu)'$  とすると以下が成り立つ

#### 定理

$V$  は  $S \times K$  の行列,  $q \in R^K, \mu \in R^S$  のとき, 以下のいずれか一方が必ず成り立つ

A)  $q = V'\mu$  が  $\mu > 0$  の解を持つ

B) ①  $q'b \leq 0$  であり,  $Vb \geq 0$  である  $b \in R^K$  が存在する, または, ②  $q'b < 0$  であり,  $Vb \geq 0$  である  $b \in R^K$  が存在する

① : 第 1 種の裁定条件, ② : 第 2 種の裁定条件

↓

#### 定理: ファイナンス理論の基本定理の別の形

$q = V'\mu$  が  $\mu > 0$  の解を持つ必要十分条件は  $q$  が無裁定条件を満たすことである

## ③ 双対定理によるファイナンス理論の基本定理の証明

### 証明

以下のような, 双対問題を考える.

#### 主問題 (問題 P)

ポートフォリオのペイオフ  $Vb$  に下限制約を加えて, 購入額  $q'b$  を最小化する

$$\begin{aligned} \min & q'b \\ \text{s.t.} & Vb \geq v, b \geq 0 \end{aligned}$$

#### 双対問題 (問題 D)

各状態のペイオフの価値  $\mu$  として, 評価価格  $V'\mu$  が実際の価格  $q$  上回らないという条件下で,  $v'\mu$  (主問題の下限) を最大化

$$\begin{aligned} \max & v'\mu \\ \text{s.t.} & V'\mu \leq q, \mu \geq 0 \end{aligned}$$

このとき, 第 2 種無裁定条件を仮定し,  $v$  をゼロベクトルとする.

⇒ 第 2 種無裁定条件より,  $Vb \geq 0$  ならば,  $q'b \geq 0$  となるので,  $b = 0$  となり, 制約は等号で成立する

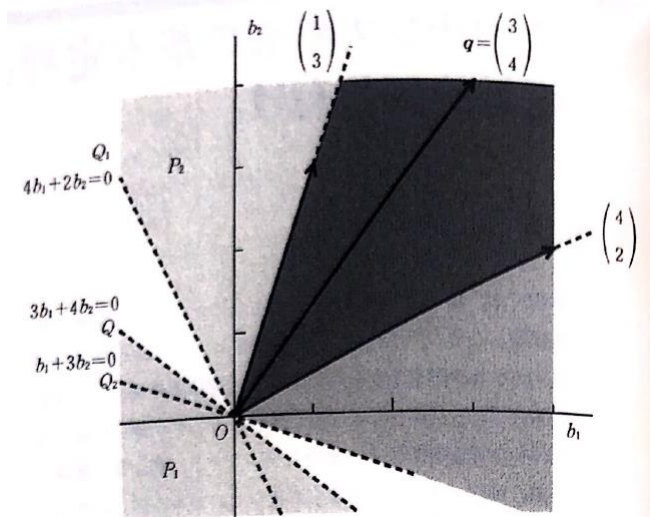
⇒ 双対定理より, 双対問題の制約も等号で成立する

$\Rightarrow V'\mu = q$ を満たす $\mu \geq 0$ の解が存在

■ 参考

■ Farkas の補題

A)



B)

※分離超平面定理を使用

分離超平面定理 (1)

$B \subset R^s$  が凸閉集合であるとし、 $x \in B$  であるとする。すると、つぎの条件を満たす  $p \in R^s$ ,  $p \neq 0$  と  $c \in R$  が存在する。

(1)  $px > c$

(2) すべての  $y \in B$  に対して  $py \leq c$ 。

$p \rightarrow b, c \rightarrow 0, x \rightarrow q, y \rightarrow V'\mu$

